

第2章

縁組協定40周年記念事業 (令和2年度～令和4年度)

令和2年度から、世田谷区民と川場村民が参加するワークショップを開催して、40周年記念イベントの具体的な内容の検討を開始した。

令和3年度には、世田谷区では40周年の記念式典とシンポジウムを、川場村では区民健康村関係者の集いをそれぞれ開催した。

令和4年度は、区民と村民がワークショップの中で発案・企画したプログラムを中心に構成した40周年記念イベントを川場村で2日間にわたり開催した。



2021年(令和3年)

世田谷区・川場村縁組協定40周年 記念式典・シンポジウム

【日時】 11月28(土) 【会場】 東京農業大学 横井講堂

記念式典

記念式典では、保坂世田谷区長と外山川場村長により、縁組協定締結40周年を記念した宣誓書が取り交わされた。

宣誓書では、これからも住民同士、自治体同士が力を合わせて、誠実な信頼関係を堅持し、協定の理念を次世代に継承し、今後も未来に誇れる交流を続けていくため、7つの内容を推進する趣旨となっている。(宣誓書は5ページに掲載)



シンポジウム

●基調講演

NPO 法人共存の森ネットワーク理事長の湊澤寿一氏が「都市と農山村の交流」をテーマに基調講演を行った。講演では、『都市と農山村は、両方セットで初めて持続可能な「系」を持つことができる。社会を構築していくことは、都市だけではできないし、地方だけではできない。一緒に考えていく社会をこれから実践していく、それが川場村であり、世田谷区でありたい。そして私たちは世代(大人)と世代(子ども)をつなげ、人と自然がつながってきました。そして人と人をつなげてきました。「つなぐ」ということが、今の社会、これからの持続可能な子どもたちの未来を考えたときに、重要なことである。』と述べられた。



●パネルディスカッション

新しい時代に向けた交流のあり方について、今までの交流を振り返り、評価をしながら、これからどういう交流を進めていく必要があるのか、時代や価値観が変わっていく中で、先駆的に取り組んできた世田谷と川場の交流をどのように発展させていくかを視点に意見交換を行った。

総務省の地域力創造の取組みとして「地域おこし協力隊」があり、一定期間地域に住みながら、地域のブランド・地域産品の開発、地域おこしの支援、住民の生活支援など様々な地域の協力活動を行い、その地域への定住、定着を図るという事業で、全国各地で非常に活用されている。

林野庁では、山林振興や地域の課題解決に向けて、人生の様々なステージで森林や木材と関わる提案である「Forest Style」、SDGsの一環として民間企業による森林や木材利用の促進、森林整備や体験活動をきっかけにした「関係人口」づくり、都市と農山村の自治体間の連携に機能している森林環境譲与税等の取組みを進めている。

パネルディスカッションのまとめ

- 人と人との関係では、「コミュニティ」が非常に重要であり、コミュニティの中に参画できる、参画しやすいという雰囲気をつくっていくことが重要なことである。
- 森林と人との関係では、その地域の文化を形成してきた地域の森林のよさ、森林らしさを磨いていく中に、交流が関わっていく、つなげていくと、新しい交流の姿が見えてくる。
- 環境問題やSDGsへの貢献意識が高い民間企業と自治体の関係では、民間企業との連携やアクセスによって、自治体間のいろいろな交流を向上させていく方向が見えてくる。
- 価値観が大きく変わる新しい時代に向けて、人と人、自治体と自治体、物と物といった「つながり」がたくさん出来て、この「つながり」をコーディネートしていくことが、交流の新しい動き方であり、新しい社会をつくっていく礎になっていく。

パネリスト

世田谷区長 保坂 展人
川場村長 外山 京太郎
NPO 法人共存の森ネットワーク理事長 澁澤 寿一
総務省地域力創造審議官 馬場 竹次郎
農林水産省林野庁次長 織田 央

コーディネーター

東京農業大学 客員教授 宮林 茂幸



2022年(令和4年)

縁組協定40周年区民健康村関係者の集い

【日時】 2月6日(土)

【会場】 川場村文化会館ホール

式典の部

世田谷区と川場村の区民健康村相互協力に関する協定(縁組協定)締結40周年を記念して、村内の区民健康村事業の関係者を交えて40年にわたる交流・連携を振り返るとともに、50周年に向けた区と村の新たな交流・連携のあり方を考える「区民健康村関係者の集い」を開催した。

当日は、雪が降り積もる中にも関わらず、89名の関係者が出席した。

※新型コロナウイルスの全国的まん延(第6波)と重なり、保坂区長はビデオレターで出演。



基調講演

宮林客員教授の基調講演では、人類史における産業革命を振り返りながら、近年の製造業の自律化とIT技術拡大による第4次産業革命期における、これからの世田谷区と川場村の交流事業のあり方について説明した。また、オンライン交流・ふるさとづくり交流など新しい形の交流やニューノーマルの社会形成についても講演した。

講師

東京農業大学 客員教授
(株)世田谷川場ふるさと公社
代表取締役社長
宮林 茂幸

テーマ

これからの交流事業に
ついて



座談会

村内在住の40周年記念事業のワークショップ参加者5名が登壇し、これまでのワークショップを振り返るとともに、川場村出身又は移住者としての視点、さらには農家、自営業、地域おこし協力隊それぞれの立場から、更に発展した交流のあり方について意見交換を行った。

コーディネーター

東京農業大学 客員教授 宮林 茂幸



パネリスト



地域おこし協力隊
一寸木 智詞



地域おこし協力隊OG
丸山 茜



りんご園おた
太田 龍之介



ワークショップ参加者
原澤 史浩



ワークショップ参加者
小林 洸

2020年(令和2年)～2022年(令和4年)

縁組協定40周年記念事業ワークショップ・ 実行委員会

世田谷区民と川場村民と一緒に縁組協定締結40周年記念事業を検討するワークショップを開催した。

当初は2021年度に記念事業の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大や東京オリンピック・パラリンピックの動向なども踏まえて、2022年度に延期して、記念事業を開催することとした。

そのため、2020年度から2021年度の2年間にわたってワークショップを4回、2022年度に実行委員会を開催して、記念事業のプログラムや企画内容を区民と村民の視点から時間をかけて話し合いを行った。ワークショップに参加した区民と村民の方々は、記念事業当日もスタッフとしても参加した。

(1) 第1回ワークショップ

【日時】 令和2年7月11日(土)～7月12日(日)

【会場】 川場村内、なかのビレジ

【内容】 村内施設めぐり、縁組協定の説明、川場村の魅力等に関する意見交換



(2) 第2回ワークショップ

【日時】 令和2年10月10日(土)～10月11日(日)

【会場】 川場村内、なかのビレジ

【内容】 村内施設めぐり、都市と農山村の交流(講義)、記念事業の企画検討に関するグループワーク



(3) 第3回ワークショップ

【日時】 令和3年7月17日(土)

【会場】 オンライン

【内容】 記念事業の企画検討に関するグループワーク・発表

(4) 第4回ワークショップ

【日時】 令和3年9月4日(土) 【会場】 オンライン

【内容】 記念事業の企画検討に関するグループワーク・発表

(5) 実行委員会

【日時】 令和4年5月28日(土)～5月29日(日) 【会場】 川場村内、なかのビレジ

【内容】 村内会場めぐり、遊歩道整備に関するグループワーク・発表



ワークショップと実行委員としてご協力いただいた皆様

(1) 講師 東京農業大学 地域環境科学部 地域創生科学科 入江 彰昭 教授

(2) 世田谷区

安藤 みさを	市来 朋久	伊藤 ふゆき	井上 高志	小野 泰正
児玉 明美	佐々木 潤	土井 清之	直江 世氏典	小林 寛太郎
緑 大智	志岐 昂一	小野 泰貴	穂山 華乃	今井 彩音

※敬称略 順不同

(3) 川場村

原澤 史浩	村上 俊英	小林 洸	宮田 毅	小林 俊晴
伊澤 菜美子	丸山 茜	村山 正樹	吉澤 守	一寸木 智詞
鳥羽 雄	鳥羽 美奈	安藤 大和	原 能之介	小菅 優希

※敬称略 順不同

■ 講師の入江先生コメント

2年間にわたり区民と村民のみなさんとのワークショップを通じて、縁組協定40周年記念イベントをはじめ今後の健康村づくりのアイデアをたくさん頂きました。40年前、双方の行政同士ではじまり、区内小学5年生の移動教室、区と村の子どもによるこども里山自然学校は、現在も継続されています。動画配信・広報PRづくりを通じて、子どもだけでなく多世代間の双方向型交流、村民の農作業のお手伝いなど区民村民同士の積極的な交流アイデアもありました。そして、それらのアイデアをもとに森林活用や散策路整備、スポーツ交流などの40周年記念イベントが実施されました。当日の会場準備、本番では、ワークショップ実行委員の皆さんに、お手伝いいただきながら各種イベントができたことを心より御礼申し上げます。50周年に向けたこの10年、区民と村民の皆さまとともに考えたアイデアを活かして健康村づくりに貢献していきたいと考えています。



2022年(令和4年)

縁組協定40周年記念イベント

【日時】 8月20日(土)

【会場】 川場村中央公園他

令和4年8月20日(土)～21日(日)、世田谷区と川場村との縁組協定40周年を記念したイベントを川場村で開催した。

20日(土)は、雨天によるプログラム変更があったが、会場となった川場村中央公園には、延べ900人の方が来場した。

21日(日)は、天候にも恵まれ、なかのビレジの裏にある友好の森で「遊歩道の整備」を区民と村民と一緒に作業を行い、子どもたちはてんぐ山公園でマスのつかみ取りを行った。

ステージイベント

開会式の外山川場村長と保坂世田谷区長による主催者挨拶からステージイベントを開始した。

木山裕策さんのコンサートでは、子どもから年配の世代まで幅広く楽しめる曲構成で、木山さんのアットホームな雰囲気と素敵な歌声に会場は魅了された。

おにぎりギネスチャレンジでは、ギネス世界記録の公式記録員の開始宣言により、チャレンジがスタートした。ステージでは、Instagramに投稿された写真がスクリーンで紹介され、チャレンジを盛り上げた。

大抽選会では、ギネスチャレンジにちなんで、川場村のブランド米「雪ほたか」や炊飯器などが賞品として並び、外山村長、保坂区長、木山裕策さんがプレゼンターとして登壇し、当選者は満面の笑みで賞品を受け取っていた。

最後はシンガーソングライターのNoeさんのJAZZコンサートが行われ、コンサートの終盤では、Noeさんのカウントダウンで、約500個のスカイランタンが夜空に打ち上げられ、会場内にはバラード曲が流れ、幻想的な空間が広がっていた。



会場内

川場まつりで恒例の「子ども遊びコーナー」では、友達同士や親子連れなどたくさんの方が、参加賞を目指して真剣にゲームを楽しんでいた。

村の関係団体による物産展では、人気の飲むヨーグルトやソーセージなどが販売された。

記念イベントということで、世田谷区から「世田谷みやげ」の販売も行われ、「社会福祉法人はる社会就労センターパイ焼き窯」と「烏山福祉作業所(工房 asi)」が会場内で出店し、自慢のプリントクッキーや手作りジャム、お菓子を販売した。



「ギネス世界記録® 町おこしニッポン挑戦」

今回の記念イベントでは、川場村のブランド米である「雪ほたか」のPRを目的に、ギネス世界記録® 町おこしニッポン「1時間にInstagramに投稿されたおにぎりの写真の最多数」に挑戦した。

ルールは、挑戦時間内(8月20日の18:30~19:30)に「#縁むすび」を付けて、おにぎりの写真をアップロードするというもの。

会場だけではなく自宅からも参加できるということで、世田谷区の方にイベントなどで事前にPR活動も実施した。

イベント会場でも、おにぎり特設コーナーを開設して、先着600名の方におにぎりを配布し、撮影ブースでのおにぎりの写真撮影とInstagramの投稿を呼びかけ、世界記録となる500件を目指した。(後日、約500件にわたる投稿について厳正な審査が行われ、最終結果は有効投稿数が353件となり、残念ながら記録達成には及ばなかったが「雪ほたか」の知名度の向上につながった。)



区民参加プログラム(8月20日)

① 生品ほうき作り教室

地域おこし協力隊のチョッキ GT5000さんを講師に招き、川場村の伝統工芸品である「生品ほうき」を参加者が製作した。



② 村巡りバスツアー

川場村の観光名所である「吉祥寺」と「土田酒造」、村の木質バイオマス発電施設である「森林^{もり}の発電所」をバスで巡り、参加者は興味深く見学した。



③ サッカー交流教室

世田谷の女子サッカーチーム「スフィーダ世田谷FC」の選手と一緒に、世田谷と川場の小学生がサッカーを通じた交流を行った。



記念プログラム(8月21日)

① 遊歩道(友好の小径)整備

区民健康村なかのビレジの裏にある友好の森内に、区民と村民と一緒に遊歩道の整備に取り組み、40周年を記念した看板の設置、階段や土留め設置作業を行った。



② マスのつかみ取り

てんぐ山公園で子どもたちがマスのつかみ取りを行った。捕まえたマスをその場で塩焼きにして昼食に食べることができ、世田谷では体験できない夏の思い出になった。



